
維持透析患者の高頻度併用薬剤による Mg 値への影響

医療法人衆和会 長崎腎クリニック 長崎腎病院

○橋口純一郎 河津多代 澤瀬健次 原田孝司 船越 哲

【目的】

透析患者のマグネシウム値への影響因子としては、食事摂取・Mg 下剤・透析液 Mg 濃度・PPI 併用などが考えられているが、透析患者に高頻度使用する各種薬剤でマグネシウム値に対する影響を検討する。

【方法】

外来通院中の慢性維持透析患者 106 名の Mg 値と使用薬剤を調査する。

【結果】

既報どおりに胃薬では PPI 投与群で Mg 値は低値だった。リン吸着薬ではカルシウム製剤とポリマー投与群が、これらの薬剤の非投与群より有意に高値だった。鉄製剤とランタン製剤は、有意差を認めなかった。ビタミン D 製剤(内服/注射)・カルシメテックス・非 Mg 下剤投与群でも有意差を認めなかった。透析液でも、Ca 濃度 2.5mEq 透析液と 2.75mEq 透析液の間に有意差を認めなかった。カルニチン(注射)投与群では、非投与群より有意に高値であった。

【結論】

Mg 値は投与薬で変動する可能性がある